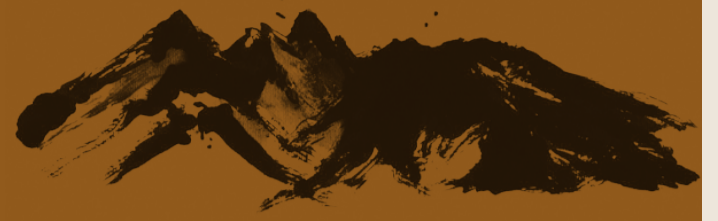


# 特集 高森町史刊行記念



## 第3回 | 歴史編



### 第1章「集落のなりたち」の見どころ



熊本大学大学院  
人文社会科学部 教授  
春田 直紀

【歴史編／第1章 集落のなりたち】

長い時代を扱う自治体史の歴史編では、最も古い原始から始まり、古代、中世、近世、近現代と時代順に叙述するのが一般的です。歴史は前の時代をうけて展開しますから、時代順の方が説明しやすいし、理解しやすいのも確かです。しかし、住民にとって最も遠い世界である原始・古代から歴史編が説き起こされる点に、歴史を身近に感じられない原因があるのではないかと、私はずっと考えてきました。古い時代が身近でない理由は、古くなればなるほど手がかりとなる歴史資料が少なくなり、その分扱う範囲が広域に及ぶという点にも求められます。

そこで、『高森町史 歴史編』では、第1章に「集落のなりたち」を設けました。第1章では高森町を五つの地域(色見・高森・草部北部・草部南部・野尻)に分け、各地域の現在の集落分布を最初に概観した上で、1950年代→明治時代→江戸時代→中世→先史時代と歴史を遡っていく、倒叙法的スタイルで叙述しています。この第1章のあとに、第2章「原始」、第3章「古代」…第6章「近現代」と続くのですが、町民にとって最も身近な時間(現在)と空間(集落)から説き起こし、地域ごとに最も古い時代まで一気に駆け上ったあとで、町域全体や郡域にまで及ぶ歴史叙述を時代順に読んでいただくというのが、本書の狙いです。こうした構成をとる自治体史は、全国的にも類を見

ない新たな試みのようです。

第1章で集落という単位に注目した理由はもう一つあります。中山間地域にあたる高森町では高齢化と過疎化が進み、高齢者の日常生活を支援するためには行政サービスに加え、地域全体で支え合う体制が必要です。そこで高森町では、地域コミュニティの核となる公民館を介護予防のための通いの場としていく公民館再生事業に取り組んでいます。行政の施策を推進するなかで、住民自治の重要性に目が向けられているのです。たしかに、どの地域にも集落ごとに住民の自治組織があり、社会生活の基礎単位として機能してきました。集落は、生活や生産をともに支え合い、信仰と行事によって結ばれた共同体であり、農林地や地域固有の景観・文化などを維持・管理する機能を持ち、災害からの復興でも重要な役割を果たしてきました。しかし、高齢化と過疎化により集落の自治的機能の維持は難しくなり、その本来の姿も世代交代によって見失われつつあります。そうした現状を前に、「集落のなりたち」をたどり、世代を超えて受け継がれてきた住民自治の伝統に光を当てることは、地域の未来を展望していく上でも意義があると考えています。

### モノから、高森町のいにしえを探る



熊本大学  
文学部人文科学科 教授  
杉井 健

【歴史編／第2章 原始】

歴史編の第2章「原始」では、考古資料(モノ)を用いて、阿蘇地域における旧石器時代から縄文、弥生、古墳時代、そして古代への展開過程を記しています。本章の最大の意義は、不十分ながらも高森町に関係する主要な考古資料を提示しえた点にあります。以下に、本章で注目していただきたいことのいくつかを箇条書きで示します。

- ①インターネットで公開されている文化財総覧WebGIS(<https://heritagemap.nabunken.go.jp/>)を用いて旧石器時代から古代までの6枚の遺跡分布図(図1~6)を作成しました。どなたでもアクセスできるWebサイトですから、ぜひご自身で高森町域を大きく拡大してご覧になってください。中世以降近現代までの遺跡情報も知ることができます。
- ②高森町で注目される遺跡の1つに幅・津留遺跡があります。弥生時代後期の遺跡です。この時期、日本列島の他の地域ではほとんど行われていない鉄器生産が、ここ幅・津留遺跡や阿蘇谷西部の遺跡ではさかに行われていました。弥生時代後期では、日本列島最大規模の鉄器生産基地だったのです。幅・津留遺跡の正式報告書はインターネットでも公開されていますが、それには調査区全体の様子が見える図面がなかったので今回作成し(図9)、建物別鉄器出土数のデータもくわえて(図16)、鉄器生産がより本格化したのは津留地区に集落の中心が移った弥生時代後期中葉以降である

ことを示しました。

- ③古墳も高森町で注目されるものですが、これまでほとんどデータが公にされていませんでした。今回、可能なかぎりそれを公開しました。南阿蘇村との境界近くにある「塚塚古墳」を測量しましたが(図23)、それが真の古墳であるとする証拠を得ることはできませんでした。中大村古墳群・慶恩古墳群に関する既調査写真や図面を発見できた点は重要です。そのうち主要な写真を公開しました(図29~31)。上色見地区には人骨の保存状態のよい石棺が多くあることに注目できます。さだまさしさんがかつて発掘した石棺を特定できたことも重要な成果です。上の園古墳群出土として保管されていた土器のなかに阿蘇市長目塚古墳出土土器が混入していることを見出した点も特筆されます。その混入土器の多くが朝鮮半島の百済や加耶からもたらされた土器であったことは驚きでした(図19)。高塚横穴群出土短甲の残りのよさにも注目していただければと思います(図48)。



幅・津留遺跡出土刀子  
(熊本県教育委員会提供)